

令和3年度 学校評価表(計画・**中間**・最終)
【5月末・11月末・3月初旬】

学校名(熊野町立熊野第四小学校)

a 学校教育目標		主体的に学び、共に生きる子供の育成				b 経営理念 ミッション・ビジョン		○児童⇒ 学んで良かった と児童が感じる学校 ○保護者⇒ わが子を通わせて良かった と思う 安心・安全な 学校、共に子育てを考える学校 ○地域⇒この地 にあって良かった と思える学校、 郷土愛を育み、地域の誇り を持たせる学校 ○職員⇒ 働きがいのある 学校						
評価計画(5月末提出)						自己評価			学校運営協議会委員による評価		n改善方策			
c 中期経営目標 (3年後を見据えて)	d 短期経営目標 (今年度)	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	h 達成値	i 達成度	j 評価 A~D 4段階評価	k 結果と課題の説明 (短期経営目標についての評価結果)	l 自己評価に関する評価 (関係者評価者の合計人数)			m コメント	10月	2月
					10月	2月			h/g	イ 適正	ロ 不適正			
共に生きる 共に生きる児童の育	○居心地のよい学級集団づくりの創造 <生徒指導部> ○他者と協働して課題解決をする児童の育成 <研究部>	○特活の推進 ○「学校楽しーと」の結果を受けての具体的な手立ての実践	学校楽しーとの項目 「この学級の一員で良かった」と思う児童の割合	5月→10月 ・・・80% 10月→2月 ・・・85%	82.0%	1.025	A A	○肯定的な回答をした児童の割合が82.0%で、目標の80%を超えることができた。自分の居場所があると感じている児童が多かった。	7	0	0	・学校内の児童の姿に接する機会が少なく、評価し難いが、児童は、明るく快活に成長しているように見える。 ・校長を中心に、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成に取り組んでいる。今後さらに目標値をあげて取り組みを進めてほしい。 ・「この学級の一員で良かった」に否定的な回答率が18.0%いた。特に、学級や学校を、特別活動(学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事)における多様な集団活動を通して、支え合い、高め合う集団にしていけるよう、計画的に取り組んでいく。 ○研究通信を通して、ブロック研修や全体研修の成果や課題を周知し、授業改善に生かしていく。 ○課題発見解決型の学習を通して技能がより伸びていくように、授業づくりを担当教員と共に進めていく。		
			○児童・教職員の意識調査肯定的な回答の割合 ○抽出児童の技能の変容	単元前→単元後 90% 単元前→単元後 80%	98.1% 100%	1.22 1.25	A A	○全体研修・ブロック研修を実施した児童の意識調査は肯定的な回答が95%を超えた。未実施の児童と職員の後アンケートは3月に記載する。 ○指導者が定めた技能の基準に対して、抽出児童全員の技能が伸びる結果となった。						
主体的な学び	主体的に学び、確かな学力を身につけた児童の育成	○主体的な学びを促す授業の創造 <教務部> ○授業改善に向けて ・令和2年度町学力調査結果で課題となった思考・判断・表現に係る算数科の単元開発を全学年で行う。 ○学力の定着に向けて ・かがやきタイムを、タブレットを使い行う。	○熊野町学力調査 国語・算数の学年平均 ○学期末テスト 知識・技能の部分で対期待値	全学年、全国平均を上まわる。 1.04以上	— 100%	— 1.004	— A	1月に実施する。 ○令和2年度町内学力調査において課題のあった問題について校内研修を行い全学年で単元開発を進めている。学期末テスト対期待値は算数科平均1.04国語科平均1.05でどちらも1.04を超えた。	7	0	0	○既習事項の定着を図るため、GOGOくまよんタイム(常タイム)を使い、タブレットや電子黒板などで効果的に学習を行う。 ○算数科で開発した単元で思考力を伸ばしていく。 ○様々な問題形式に慣れるため、朝の帯タイムを活用する。		
健康・安全	健康・安全に関する知識をもち、適切に行動することができる児童の育成	○健康・安全 教育の推進 <保健安全部> ○体力の向上 体育科の授業・体育的行事・外遊びの推奨を通じた体力づくりの取組 ○防災教育の推進 ・目的意識をもった避難訓練の実施 ・地域と連携した防災教育の取組 ○感染症対策の徹底	○体力テストの結果から課題の種目の向上率 5月→11月 ○目的意識をもった避難訓練が実施できる児童の割合 ○感染症対策(手洗いの励行・マスクの着用)が徹底できる児童の割合	105% 95%以上 95%以上	103% 98.7% 100%	0.98 1.039 1.053	B A A	○新体力テストの結果、特に課題のある20mシャトルランの向上に取り組んできた。10月の下旬に2回目のシャトルランを実施した結果、向上率は103%で、目標値の105%を上回ることができなかった。 ○2学期に実施した避難訓練実施後の児童アンケートでは、肯定的な回答をした児童の割合が98.7%で、目標値の95%以上を達成することができた。 ○2学期に実施した児童アンケートと児童の生活の様子から、100%を達成することができた。感染症対策週間を設け、予防を徹底した成果である。	7	0	0	○学年によって向上率に差がみられたため、学年間で工夫して、体育科の授業の中に、瞬発力と持久力を高める取組を組み入れる。また、全校においては、校内持久走記録会、鬼ごっこを中心とした外遊びを実施して取り組む。向上率が達成できていない学年は、1月に再度シャトルランを実施して向上率を検証する。 ○日常的に自分の身を守る行動がとれる取組(先生の指示や放送をよく聞く、安全に気をつける等)を継続して行う。また、授業での防災教育・教職員の防災研修を実施することで、防災への意識を高めていく。 ○感染症対策100%を維持するために、 ①継続した手洗い・マスク着用の声かけを行う。 ②感染症対策週間を実施する。 ③保健指導を通して冬期での感染症対策の徹底を図る。		

j評価 A~D 4段階評価
A: 100 ≤ (目標達成)
B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100
C: 60 ≤ (もう少し) < 80
D: (できていない) < 60